

街路樹

平成17年7月11日(月)
 いわき市総合教育センター
 いわき市平字堂根町1-4
 0246(22)3705

学力向上に向けて ～いわき市学力実態調査の結果から～

学習のけじめについてのアンケート結果①

質問内容 「授業中正しい姿勢で勉強していますか」

	全 国				いわき市
	平均	上位	中位	下位	
小学校6年	40.3	43.8	40.2	36.4	40.6
中学校1年	42.9	46.0	44.3	38.3	41.7

学習中の姿勢については、子どもたちの意識の中で、「あまりよくない」と認識している児童生徒が、学習成績とあまり関連なくとも約6割近くいることになる。

この姿勢については、小学校で45分、中学校で50分間の学習の持続力と健康面からも大きな課題となるものと考えられる。

特に、視力の問題とも関連してくるので、採光の取り入れ方や換気、座席の位置や上肢の屈折等養護教諭との連携を図りながらの指導が必要である。



質問内容 「黒板に書かれなくても大事なことはノートに書きますか」

	全 国				いわき市
	平均	上位	中位	下位	
小学校6年	52.6	60.4	50.4	46.0	54.6
中学校1年	57.8	66.2	58.7	48.7	59.4

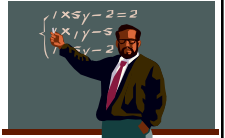
教師が板書しなくとも、自らノートをする児童生徒が約5割から6割近くいることになる。予想している数値より多い状況にあるが、「学習を振り返ったとき学習内容が理解できる」ようにするため、更にノートの機能について指導を積み上げ、児童生徒が家庭学習に役立つものにすることが大切であり、基礎・基本の定着という観点からも常日頃からの配慮事項となる。

板書・ノートの指導技術 ②

～日々の板書について見直しましょう～

Q. 板書のタイミングはどうすればよいか？

A. 板書のタイミングは、下記のように留意することが大切です。



①間の取り方に心がける。

発言後に、急ぐような板書は禁物です。言葉の響きや子どもの反応・思考を大切に、少し間をおいてから板書するようにします。

②全てを書かないでポイントの板書に心がける。

子どもの発言や教師の意図を全て板書するのではなく、思考の要点になるものを板書するようにします。

③教師が話しながら板書しないように心がける。

教師の話と板書内容を考えるゆとりがなくなり、また、教師が後ろ向きで話しながら書くため、話が聞き取りにくく、教師の表情も見えません。

④活動が活発なときは、板書しないように心がける。

子どもの活動が活発になっているときは、教師もその中にとけ込む姿勢が大切です。板書をする、思考活動が中断します。思考がまとまったところで板書するとよいでしょう。

教育相談係より

○電話相談や来所相談は、随時行っております。

また、月1回、臨床心理士や医師による相談を行っております。ご利用ください。



すこやか教育相談 23-7261
 子ども健康教育相談 22-3705

研修の感想紹介

経験者研修Ⅲ全体研修 (6/17)

<講義>

○教育公務員としての姿を若手の先生に示し、学校教育における信頼を回復することが、私たち中堅教員に与えられた使命であると改めて認識しました。「事上摩練」という言葉を心に留め置き、日々努力していきたいと思えます。

○今までやったことのない協議の仕方、ちょうど自分の出した課題で話し合いができ、悩んでいたことの解決策が見えてきたように思えます。

○経Ⅲはこのような、短時間で中身の濃い研修がよかったと思えます。



プレゼンテーション作成講座 (6/21-22)

<講義・演習>

○社会科で、子ども達と見学に行けない場所などを、デジカメで撮影し、プレゼンテーションを作成して授業をしてみたいと思った。短時間でしたがとても充実した研修でした。

○子どもへの授業はもちろんのこと、保護者との懇談の時など、子ども達の活動した写真を盛り込みながらプレゼンテーションを使うと有効であると思った。

○アニメーションの挿入、音の挿入、ファイルの入れかえなど、様々な使い方を知り、コンピュータの使い方に幅が広がり、視覚的にも訴えられることを研修できた。